

市長就任のごあいさつ



仙北市長 門 脇 光 浩

先月の市長選挙で再び市政運営の責任者に着任した門脇光浩です。市民の皆様には一層のご指導を、どうかよろしくお願いします。

今回も市政公約集を作成し、これを基本に選挙に望みました。第1に「これまでの4年間の反省と新たな決意」、第2に「これまでの4年間の取り組みの現状」、そして第3に「今後の4年間の4つの決意」です。どの項にも、これまでの4年間の職務経験から学び、今では自身の政治信条となった「守る・決める・創る」と言う言霊を添えました。先人より受け継いだ伝統と文化を次の世代に伝え、いかなる難題も先送りすることなく最良の判断を下し、住み続けたいまちづくりを創意工夫で実現する、そんな願いを込めたものです。

前任期で実現途上にある政策は、今任期でも引き続き達成に向け作業を継続します。その中で特に必要と感じた4項目は、

1. 産業振興や雇用対策を徹底し税収の確保を図る。
2. 組織再編や庁舎一元化に取り組み行財政改革を断行する。
3. 協働のまちづくりを進め民間への事業移転を加速する。
4. 少子高齢や人口減少に歯止めをかける政策に着手する。

です。再選で、これまで以上の重責を担った思いです。

この4つの項目には、さらに具体的な事業内容を掲げました。農業の高付加価値化や観光産業の世界基準化、国道46号・国道105号の改良促進などによる経済流通対策の促進、行政組織の再編と市民に寄り添う職員の育成、自然災害への対応力強化と自主防災組織の立ち上げ、一体型庁舎に向けた条件整備、行政事務と事業の民間移転、地域運営体交付金の交付基準の明確化、病院建築と医師確保、スポーツ・文化施設や事業の充実、思い切った人口減少対策と高齢者の社会参加などに、向こう4年間渾身の努力を傾注します。

重ねてご協力をお願いし、ごあいさつとします。

市立田沢湖病院の現状とお願い

市立田沢湖病院 院長 佐々木 英人

市民の皆様には、平素より市立田沢湖病院の運営にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。当院は、地域の医療、健康を守るべくコミュニティホスピタルを目指して、鋭意努力をしているところですが、今現在、医師も看護師も大変不足しております。そのため、地域の皆様の全てのご期待、ご要望にお応え出来る体力がございません。

こうしたことは、当院だけの問題ではなく、地域の公的病院が、多かれ少なかれ抱えている問題であります。医療を取り巻く環境の変化、殊に新臨床医師研修制度をきっかけとして、地域における医師不足、地域医療崩壊が日本全国に広まってしまいました。公的病院の廃統合がなされ、救急医療も崩壊状態にあることは皆さんもご承知のことと存じます。

さて、当院では、地域の病院を何としても残すのが先決と、苦渋の選択ではあります。平成18年9月から救急指定病院を返上、病棟を「障がい者病棟」として、生き残りに掛けているところであります。そうした中でも、超高齢化が進む当地区の医療においては在宅医療の推進が必要不可欠なものととして、在宅

医療に積極的に取り組んでおります。

在宅医療の患者様に対しては24時間対応の医療が必要不可欠ですので、往時の救急対応を行っていただいております。また、病態が不安定で医師が必要とした場合に關しても、往時の救急搬送を受けております。

さらに平日の月・水・金曜日の19時15分までは急患を受け付けており、火・木曜日は夕暮れ診療として19時まで診療を受け付けております。土日祝日は8時30分～17時15分までの急患受付としておりますが、救急病院ではありませんので原則として救急車は受け付けておりません。これが、当院で今できる精一杯のことなのです。

これ以上の負担を医療スタッフにかけ、更に疲弊させることが、医療ミス、事故につながり、むしろ地域の医療にとって不都合が生じる懸念がございます。こうしたことを、ご理解の上、是非当院を暖かく見守り、育てていただくようお願いいたします。是非皆様の、「おらが病院」、コミュニティホスピタルを、一緒に実現したく思います。

市立角館総合病院 新築計画の進捗についてのお知らせ

平成22年に策定された基本構想に沿って、現在も計画を推進していますが、平成25年9月末に基本設計がまとまりましたので、市立角館総合病院ホームページで公開します。

なお、今後は実施設計の完成に向けて全力で取り組み、新病院の建設については、平成27年秋頃までの竣工を目指して、新築計画に取り組んでいきます。



●市立角館総合病院ホームページ

※新着情報参照 <http://kakunodate-hp.com/>

●問合せ／市立角館総合病院 建設推進室 ☎ 54-2111